

右七左衛門儀、親爲跡役元文二年三月平十村役被仰付相勤罷在候所、寛保三年六月御扶持高十五石奉願被下置候。此者之儀諸事御用方精に入實躰に相勤、組下裁許并廻り口取捌等茂、並を越宜敷相勤申候。外十村共見習に茂罷成、御郡方御縮にも罷成者に御座候に付、唯今迄被下置候御扶持高十五石之上、今般十石御引足、都合二十五石被下之候様に奉願候。

能美郡組持御扶持人十村寺井村故孫七せがれ

歲十九 平 吉

右平吉親孫七儀、延享二年病死仕候。平吉儀其節未熟に御座候に付、組下裁許之儀當分同郡御扶持人共々申付置候。平吉儀延享四年より新田裁許申付置候所、精に入相勤、十村役も可相勤者に御座候間、親跡組平十村役被仰付候様仕度奉存候。

射水郡組持御扶持人十村五十里村故半次郎せがれ

歲十九 庄 右衛門

文言同斷、少々之違有之。

能美郡組持御扶持人十村犬丸村故太右衛門せがれ

歲三十一 庄 五 郎

礪波郡平十村中田村故源六せがれ

歲五十六 源 五 郎

右源五郎親源六儀、平十村役數十年相勤罷在候所、當正月病死仕候。せがれ源五郎儀、親存生之内より名代役久々爲相勤置申候所、諸事御用方精に入、功者に相勤申候間、親跡組平十村役被仰付候様仕度奉存候。右之通奉願候。以上。

己巳七月

九人 連判

前田 式部殿

小堀半右衛門殿

稻垣三郎兵衛殿

射水郡平十村佛正寺村

平 太

右平太儀、享保十四年より十村役被仰付置候所、其後病身に罷成、村廻り并に金澤詰番等爾々相勤不申候。今年五十六歳罷成、未老年と申に而茂無御座候に付、快氣茂可仕哉と數ヶ年見合置申候得共、次第に病身に而、御用難相勤躰に御座候間、十村役指除可申奉存候。悴九郎兵衛儀、山廻り役申付置候。此者儀十村役被仰付候而も相應之者に御座候に付、親爲代十村役相願可申儀に御座候得共、平太儀數ヶ年病身に而御用相勤不申候に付指除申趣に御座候間、せがれ九郎兵衛十村役被仰付候儀は追而相願可申与詮議仕候。左候得ば平太組裁許は、當分廻り口十村に可申渡置奉存候。以上。

月日宛所同斷

一四八 檢地願書出候儀觸

諸郡前々より川入・山崩等に而地不足出來、檢地相願候所々、當分檢地代引免等申付置候得共、僉議之趣有之、當秋より檢地可申付候間、先一郡に二ヶ村充可書出候。自然不僉議之品有之、追而相知候はゞ、急度可相答候條、精誠途

僉議可申聞者也。

巳六月

御用番 兩 人 印

諸郡御扶持人中

手取村 北嶋村二ヶ村共 横江村 押野組
福富組

右近年村中所々清水出、立毛不宜段礎に見届候由、中宮屋九郎右衛門申候。手取・北嶋は年季引に候へ共、とかく成立不申由也。

一四九 猪鹿打拂鐵炮貸渡願之事

礪波郡苗加村次郎左衛門・大西村加傳次兩組之内、山方猪・鹿多く出、作方に障り候に付、四年以前次郎左衛門存命之内、加傳次申談、私共迄書付を以、鐵炮御貸渡被下候はゞ、藥迄に而威し申度旨相願候所、鐵炮御貸渡之儀舊例